

アフリカに届いた防具

佐賀県からは遠い、遠い、アフリカのタンザニアで、2018年、タンザニアで初の剣道クラブが発足しました。クラブといっても、当時部員はたった2名。指導者は当時 JICA タンザニア事務所に勤務されていた矢追秀樹さんでした。2人は、JICA タンザニアオフィスの屋上で、普段着のまま素振りや、すり足の練習から始めました。なぜなら、練習する場所も、必要な防具もなかったからです。

その後、練習場を探す中で、空手を教えている道場を土曜日のみ借りる事ができ、空手を習っていた生徒さんたちが剣道にも関心を抱き、少しずつ部員が増えていきました。

▼届いた防具を付けてポーズ！



▼タンザニア剣士の眼差し



しかしながら、環境が整っているという訳ではありませんでした。現地の建物は板張りではなくコンクリートの為、裸足で競技を行う剣道は足を痛めてしまう可能性もあります。また、胴着も防具も無いため、実践的な練習でなく、前述したような基礎練習しか行えないままでした。

そんな折、様々なご縁が繋がり、佐賀県立三養基高校から防具の支援が行われました。全員が防具を付けての練習とまではいっていませんが、寄付を頂いた事により、練習で出来ることの範囲が広がり、より一層練習に励むことの出来る環境が整いました。その後、タンザニア剣士から、支援して頂いた方々への手紙も届けられました。

そののち時は流れ、2020年現在。3か所の道場で約50名のタンザニア剣士が稽古に励んでいます。今後も、タンザニアでの剣道の輪が広がっていくことに、多くの期待が寄せられています。



▲現地からの手紙

